

## 「ことば」を通じた他者とのコミュニケーション

Keywords : ドイツ語・言語学・スイス研究・ハイジ

### ◆研究概要等

大きな枠組みで言うと、ことばについての学問である「言語学」を専門としています。その中でも、ドイツ語を対象とした「ドイツ語学」という分野です。しかし、単に「ドイツ語」と言っても、実際には、使用されている時代や地域、社会的グループ、または個人によっても、かなりの違いがあります。今のところ、そうしたドイツ語の多様性に着目し、ドイツ語だけが持つ特徴や他の言語との共通点を探しています。また、短期間スイスに滞在していたことがあり、スイスで使用されているドイツ語と他のドイツ語圏のドイツ語の違いにも目を向けています。さらに、スイスという国そのものへの関心から、「アルプスの少女ハイジ」を含め、スイスの地域研究にも興味があります。

### ■研究テーマ等

#### 1. 「ことば」の面白さ

言語学だけでなく、たとえば、哲学や心理学などの様々な分野が「ことば」を研究対象として扱っています。その中で、言語学が他の学問からのアプローチと特に異なっているのは、個別の事例（実際の用例）を大切にすることだと考えています。日常の言語を研究していると、「理論的に考えればこうなるはずなのに、実際にはそうになっていない」ということがよくあり、それをどうにか説明したくなります（しなければならなくなります）。研究室で本を読んでいるだけではわからないので、それなら現場に足を運んでみようということになります。（研究の副産物として）今まで知らなかったところに行って、魅力的な人々に出会い、新しい体験をすることができるのが一番の醍醐味です。

教養・基礎教育部門

准教授

だいき ゆうた

大喜 祐太

daigi@socio.kindai.ac.jp



[https://researchmap.jp/yuta\\_daigi](https://researchmap.jp/yuta_daigi)

#### 2. 「存在」をどのように表現するのか

英語の *there is* 構文や日本語の「～がいる／ある」のように、ドイツ語にも「存在表現」と呼ばれるものがあります。最もよく用いられるのが *es gibt* 構文（英語で直訳すれば *it gives...*）で、たとえば、*„Es gibt Wasser auf dem Mars“*。「火星には水がある」のような表現です。ところが、英語や日本語の表現から推測してどんなときでもこの構文を使用してしまうと、ちょっとおかしい文になってしまいます。たとえば、目の前のテーブルにある本を指差して、*„Es gibt ein Buch auf dem Tisch“*。「机の上に本がある」はあまり使われません。英語や日本語であれば同一表現でも、なぜドイツ語では「火星の水」と「机の上の本」の存在は異なる表現となるのか、そんなことが気になっています。

### 3. 『ハイジ』のドイツ語

『ハイジ』は、日本でもテレビアニメなどを通じてよく知られています。原作の小説は、スイスを代表とする作家ヨハンナ・シュピーリ (Johanna Spyri, 1827-1901) によって19世紀後半にドイツ語で書かれました。私の関心はその小説内のことばの地域性です。作品の舞台は主にスイスのアルプスとドイツのフランクフルトで、一人の少女を取り巻く日常の暮らしが描かれていますが、作品からは「他者とのコミュニケーション」「教育」「都市と地方」といった普遍的なテーマを読み取ることができます。



#### ●論文・作品・表彰・特許等

1. 大喜祐太 (2021)「独英存在構文の文体的特徴に関する一考察 ―テキスト内の結束性に着目して」日本文体論学会『文体論研究』67, 41-51.
2. 大喜祐太 (2020)「ハイジのドイツ語 ―そのスイス的要素を探る」井出万秀・川島隆 (編)『シリーズ「ドイツ語が紡ぐ世界」ドイツ語と向き合う』ひつじ書房, 217-239.
3. Daigi, Yuta. (2018) Lokalität, Faktizität, Angebot, Einführung: Verschiedene Aspekte der deutschen Existenzaussage. 日本独文学会東海支部『ドイツ文学研究』50, 41-52.
4. 大喜祐太 (2014)「ドイツ語圏スイスの標準語を決めるのは誰か ―書きことばにおける文法的スイス語法の考察を中心に」京都大学大学院人間・環境学研究科『言語科学論集』20, 63-82.

#### ▲趣味等

**サッカーとフットサル：**決して上手ではないものの、小学生の頃から続けているサッカーが好きです。中学校に入ってからずっとゴールキーパーだったのですが、ボランチの選手に憧れます。留学中に友人とトリノのスタジアムに行き、ピルロとマルキージオを見たときは感動しました。

**スイスのタイポグラフィ：**こちらも趣味の領域ですが、街にある看板とか駅名とか、内容よりもまず「文字」に目がいきます。若干研究と関連するところと言うと、スイスを含めドイツ語圏の国々にはタイプデザインの伝統があります。よく知られている「ヘルヴェティカ」(Helvetica) という書体は、ラテン語で「スイスの」という意味で、1957年にスイスのデザイナーが製作しました。そういった文化的風土もこの地域に惹かれる理由の一つです。

#### ◆ゼミの宣伝等

学部生のときは、一人で本を読んだり、同級生と読書会をしたりと、自らの学びが最も重要だと考えていました。しかし、今思えば、講義やゼミが必要でなかったかというところもそういうわけでもありません。そこでは、思いもよらない考えやトピックに出くわすことができるからです。特にゼミでは、他のメンバーや教員と直接議論を交わすことができるチャンスです。